



島から日本一楽しい学校を
～子どもが未来に誇れる学校～

平成28年11月30日 第20号
校長 酒井 元治

メディアの危険性

11月25日(金)、佐々町から長崎県メディア安全指導員の森田久美子先生をお招きして、「メディア安全講習会」を実施しました。

森田先生は、現在23歳になるご長男を始め4人のお子さんのママ。お子さんが幼稚園の頃から、幼稚園・小・中のPTA会長を引き受けられ、現在も清峰高校の会長2年目の先輩・現役のPTA会員です。

この日、朝の高速船で来島するなり、北松西校の全生徒に、午後は小学校5・6年と中学校全員に「ゲーム・スマホ・ネットの上手なつきあい方」と題し、授業をしていただきました。そして、その後小・中・高の保護者を対象に「子どもを守る保護者の姿勢」というテーマで、ネット社会の危険性についてご講演をいただきました。その中で私が伝えたいものを私見を交えながらお伝えします。

ネット社会の危険性は年々高まり、10年前と比べものになりません。

一般的に伝えられているようにワンクリック詐欺や高額な使用料請求、なりすましによる子どもたちの被害は絶たない。LINE、Twitter、FaceBook等のトークや書き込み、または写真などの投稿は個人を特定されたり、知らないところに転送されたりして、「しまった。」と思ってもネット社会では完全に削除することが難しい。

保護者の方の中にも、このようなネット上でお子さんの情報や他の子どもたち、学校の情報を不特定多数の人が見ることができる書き込みをされていらっしゃる方がいらっしゃいませんか？これには、かなりの危険性があります。「〇〇小学校の△△さん」ということを様々な情報から読み取り、悪用する犯罪者もいます。実際、そのような被害も出ていますのでご注意ください。

ネットに掲載していいのは犯罪者に見られてもいいことだけ。また、授業参観の写真等のネットへの投稿は学校として禁じます。



コミュニケーションのすれ違いから、友だちとのトラブル・いじめへ



特に中・高生の間でネットに関する最も問題となることはこれです。友だちのトークにスタンプや短い言葉で返信するなどによって、こちらの意図とは違ったように受け取られる。最初はちょっとしたすれ違いが、大きなことに発展してしまう。

また、斉一生の原理（集団の原理）が働き、「あいつ、ちょっとウザくねえ！」と誰かがSNSなどで書き込みすると、さほどそうは思っていないなくても同調し、「そうさ、そうさ！」となってしまう。しばらく返信がないと、「あいつ、無視しとる。」となる。

そんなことから深刻ないじめ問題に発展したというのは私が3月までいた佐世保でもよく聞く話でした。

ネット依存



スマホや携帯が手放せなくなり、食事のときも、お風呂でも、布団の中でもスマホを離せなくなる。注意されると逆ギレ、刃物を親に向けてといった事例も報告されています。

深夜でもずっとスマホを持ったまま。パソコンやスマホのブルーライトは目に悪いばかりか、眠りに向かおうとする脳を刺激し、心地よい睡眠を妨害してしまいます。そのため、日中眠くなる、やる気が出ないなどの症状を引き起こします。

また、睡眠のゴールデンタイムは午後10時から午前2時と言われ、この時間帯に熟睡していることで体をリセットし成長ホルモンが分泌されます。子どもでは体や脳の成長を促し、大人では老化の防止や美容効果があると言われています。逆に、サイクルが狂うと様々な病気の原因、とりわけ心の病の原因になるということは最近よく聞くことです。

では、これらの危険性や被害から子どもたちをどう守っていくか。森田先生は以下のようなこととお話してくださいました。

- ・早いうちからスマホや携帯を与えないこと。
- ・フィルタリングをかけること。
- ・家庭で約束事を決めること。
- ・子どもがどんな利用の仕方をしているか、親が把握しておくこと。
- ・トラブルが起こったときに子どもが救いを求めることのできる親子関係をつくっておくこと。

最後にご紹介くださったのは「ママのスマホになりたい」という絵本と歌でした。

これはシンガポールの小学生が書いた作文をもとに、絵本作家の「のぶみ」さんが絵本を書き下ろし、シンガーソングライターの弓削田健介さんが作曲されたものです。YouTube で動画配信もされています。ご覧になってみてください。

以下はその小学生の作文（原文）です。

【ぼくの願い】

ぼくのパパはスマートフォンになることです。

なぜなら、ぼくのパパとママはスマートフォンがとても大好きだから。

ママとパパはスマートフォンばかりを気にして、ときどきぼくのことを忘れてしまいます。

ぼくのパパが仕事から疲れて帰って来たとき、パパはぼくではなく、スマートフォンと時間を過ごします。

ママとパパが大事な仕事をしていてスマートフォンが鳴り出したら、1回鳴っただけでもすぐに電話に出ます。

ぼくが泣いているときでさえ…そんな風にはしてくれないのに。

ママとパパはぼくとではなく、スマートフォンでゲームをして遊びます。

スマートフォンで誰かと話しているとき、ぼくが何か伝えたいことがあっても、ぼくの話聞いてくれません。

だから、ぼくのパパはスマートフォンになることです。



考えさせられる作文です。小値賀の子どもたちにはこんな思いはさせたくないですね。

今年度の長崎県の調査（全公立小・中学校対象）では、以下のような結果も出ています。

・携帯・スマホの使用時間が2時間以上

小学校5・6年では全体の7% 中学生では27.3%

・携帯・スマホを所持している児童・生徒で嫌なことや危ないことを経験した

小学校5年～中学校3年 所持者の21.9%

その中には「チェーンメールが送られてきた」「他人から迷惑メールが送られたり、つきまとわれたりした」も多く含まれています。

声援に背中を押されて (小・中ロードレース)

ここ数日のどんよりとした天気からちょっと温かな小春日和の昨日29日(火)、小値賀恒例の小・中ロードレースを開催しました。これまで小学校では2校時終了後の中休みに5分間走を行い、中学校では朝から練習し、さらに小中合同の練習を数回行いました。合同練習では、小学生の背中にそっと手を当てながら励ましてくれる中学生の姿がありました。



昨日は、多くの保護者の皆様、地域の皆様にご声援をいただきながら、これまでの自分に打ち勝とうと一生懸命がんばっている子どもたちの姿がありました。熱いご声援本当にありがとうございました。思いあまって子どもたちといっしょに走ってくださった保護者の方々、大会を盛り上げてくださりありがとうございました。

また、町民の皆様には道路の交通等でたいへんご迷惑をおかけいたしました。快くご協力くださいましたことに心より感謝いたします。

各学年の3位までとタイムは次の通りです。

学年	1位	2位	3位
1年	小崎 愛音(4'21)	角永 太晟(4'48)	田中愛心海(4'59)
2年	田中 瑠海(4'06)	宮崎 真之(4'06)	濱田 風紗(4'18)
3年	松本 我道(5'08)	堀内 久渡(5'10)	角永 佑太(5'14)
4年	遠山 琉伊(4'50)	前田 海洋(5'06)	田川 翔明(5'11)
5年	濱田 朔羅(5'38)	濱田 愛羅(6'29)	橋本 萌愛(6'36)
6年	森岡 聖准(5'26)	松永 弘大(5'31)	山元佑太朗(5'33)

